

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年4月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690100591号
法人名	医療法人 愛人会
事業所名	グループホーム桜並木
所在地	鹿児島市紫原4丁目30番22号 (電話) 099-802-4312
自己評価作成日	平成29年2月27日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慈愛の精神 すべての人を愛する人間愛のもとに、すべての人の意思を受容し、すべての人の人格及び尊厳をお守り致します。

自立の支援 その人の出来ない事だけを支援し、自立性を高めて頂きます。

社会的役割 私たち職員は、常に入居者と同じ目線に立ち、地域の社会資源となるよう努力します。入居者、家族、地域、ボランティアの方々が入りやすい雰囲気であり、共同生活空間が家庭的で落ち着いたものになるように配慮していきます。当グループホームは閑静な住宅街に位置しており、公園やドラッグストア等もすぐ近くにあるので、散歩や買い物等を楽しむ機会を多く持てるように支援しております。

また、同系列の医療機関と24時間連携が取れるようになっているので、緊急時の対応や、医療的な指示を仰いだりする事が迅速に行える体制が出来ている。協力医療機関の主治医による往診が月2回、看護師長による健康チェックが週3回行なわれており、定期的な医療行為を行なってもらっている。

また、必要に応じて訪問マッサージや訪問歯科診療等も受けられる体制が出来ている。他に、事故報告書やヒヤリハットの記入、提出を徹底しており、統計を取り事故の内容や時間帯等を分析して事故の再発予防等、リスクマネジメントに力を入れている。季節毎の行事や煙害活動、レクリエーションにも力を入れており

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは、鹿児島市街地の高台にあり周辺には、公園やスーパーマーケット、銀行や薬局などがありバス停にも近く幹線道路沿いに位置している。
- 職員は、月1回程度の外出ができるよう支援に取り組んでおり年間計画を作成しているが、年々重度化も進んでいるため家族に協力を頂きながら自宅訪問や墓参り、外食などを楽しんでもらっている。
- 理念は、理事長の思いが込められたものでパンフレットに掲載し、共有スペースに掲示して職員会議時に全員で唱和しながら理念に沿ったケアが実践できるよう職員全員で取り組んでいる。
- 母体は、医療機関であるが他の協力医療機関とも連携が図れ24時間適切な医療が受けられる体制がある。月2回訪問診療、週3回は訪問看護との連携もあり、緊急時や重度化した場合の早めの対応についても関係者間で検討し安心して生活が送れるよう努めている。
- 管理者や職員は、利用者、家族に日々の暮らしや面談の中で意見や要望などを聞き取っている。また、管理者は年1回家族に向けてアンケート調査を実施している。職員とは、随時個人面談し、朝礼や職員会議などで意見や提案などを聞く機会を設けている。職員の平均年齢は低く、職員が働きやすい職場環境を整備しているため、離職も少なく職員の関係性は良好である。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ユニットの見やすい場所に理念を掲示し、日々のケアが理念に沿ったものになるように意識している。	設立当初からの理念は、代表者の思いが込められたもので、人間愛をもとに残存能力を活かした生活の実現、利用者が地域社会の一員として日々の暮らしを送ることができることを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、近隣の保育園等の行事にも参加し、地域との交流の機会を持っている。	職員は、町内会の回覧板を通じて地域の情報収集やホームの行事案内をするなど活用している。運動会、保育園の行事への参加、地域の夏祭りにも毎年参加するなど地域との関わりを意識し外出する機会を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	敬老会等の行事や勉強会を実施し地域の人達にも参加を呼び掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、意見交換やアドバイスをもらったりしている。	仕事や家庭の事情などにより家族の参加が少ない。管理者は、より多くの家族が参加できるよう検討したいと考えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況報告書を定期的にメールしているが、その際に連絡事項を添付して送信している。	市担当者とは日頃から電話やメールなどで連絡を取り、相談や報告などを伝えながら、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置、勉強会も定期的に行なっており、身体拘束廃止の意識を持ってもらうよう努めている。	職員は、定期的に身体拘束の研修会を実施し知識を研鑽するなどしているが、新人職員には接遇マナー研修の中で、身体拘束の弊害についての教育を徹底している。利用者には鍵をかけず自由に過ごしていただいている。エレベーターなどの構造や環境に配慮し、チャイムを設置し注意喚起して安全に暮らせるよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳の気持ちを大切に言葉使いに注意している。大声等で入居者様に恐怖心を与えないように留意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいらっしゃるため、職員の勉強会を開催しているが、認識は不十分だと思われる。今後も継続した勉強会により知識を深める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時に重要事項説明書やパンフレットを用いて説明し、理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、ケアプラン担当者会議、面会時等に意見・要望を聞き、日々の申し送り・職員会議で意見交換を行いサービスに反映できるように努めている。	年1回家族向けのアンケート調査を実施し、職員全員で話し合い、家族会で報告するなどサービスの質の向上に取り組んでいる。また、毎月、「桜並木新聞」を家族に送る際、担当職員よりご家族宛てにコメントを書いているが、利用者に特化した内容に終始しているため、管理者は、利用者や家族の意見、要望についての声も寄せてもらえるよう検討したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や職員会議等で、意見を述べられる機会を作っている。必用に応じて個別面談も行なっている。	管理者は、勤務変更を柔軟に実施し、個別相談に応じて公私の悩みや職務上の意見、提案を聞いて職員会議などで話し合い運営に反映させている。職員の平均年齢も低く、関係性も良好で定着しているなど職場環境がよい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が法人の事業所連絡会議に参加し、職場の状況等を報告し問題解決出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には新人研修を行い、その他の職員も定期的な勉強会に参加し、サービスの質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加の他、他事業所との情報交換を行い、質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に当ホームを見学して雰囲気を実感、体験して頂く。本人の希望や不安なこと等を話してもらう。また、自宅へ伺い生活歴・環境を考慮して信頼関係を築けるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、ホームへの要望を尋ねる。ホームの特性、後かs¥族への協力依頼等を併せて説明し、相互理解を深めるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からよく話を聞き、必要としている支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、掃除、裁縫等、本人の興味のある事を一緒に行なう機会を作っている。人生の先輩として生活の知恵を学ぶ機会としている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への手紙を毎月発送しており、行事への参加も呼びかけている。家族が気軽に面会に来られるような雰囲気作りを心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所のスーパーに買い物に行ったり、行きつけの店に行ったり等、車での外出も行なっている。	地域の方や友人などの来訪があったり、訪問カットの方とも馴染みの関係になっている。また、家族と美容院に行かれる方もいて、面会時は、居室でゆっくり語らい過ごすことができるよう配慮している。携帯電話を活用したり、ドライブがてら自宅に帰られる方もおられるが、馴染みの関係が途切れることがないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同スペースにて、おやつ・レクリエーション・体操等を行っている。各入居者の性格、相性を考慮し、会話等の交流を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院にお見舞いに行き本人と話をしたり、ご家族の不安等を話してもらっている。契約終了後もホームの行事の案内状を送付したりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日の時間帯の中で、居室でゆっくりできる時間を設けている。本人が話しやすい環境を作り、希望や不安などないか尋ねたりして、入居者の立場になって考えるようにしている。	施設介護経過記録には、利用者の日々の暮らしぶりや本人が話したこと、気持ちなどが記載されており、定期的なカンファレスでは、本人の思いを話し合い、家族から情報を得るなどして職員全員が本人の思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、他事業所からのサマリー等の情報を把握する。また、毎日の生活、会話の中から新たに情報を得られるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室に籠っている時間、日中の臥床時間等の長さや食事摂取量、表情、行動、会話等を観察しその人の全体像を把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時、運営推進会議の参加時等に希望、意向を聞いている。また、担当者会議を開催しケアプランに活かしている。	更新時や利用者の状況など、短期目標の期間に応じて毎回担当者会議を開催し、モニタリング結果を踏まえ再アセスメントして計画の内容を見直すなど現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にその日の様子を記録し、朝礼や引き継ぎ時に報告し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望や意向を聞きだすようにし、それに沿った支援が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園や近くの店等に行く機会を持ち、少しでも地域との交流が出来るよう配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力医療機関での受診、往診を受けて頂いているが、家族や本人の希望があればかかりつけ病院での受診をしてもらっている。	月2回の訪問診療や週3回訪問看護師による健康管理など医療連携体制が構築されている。専門医は、なるべく家族に協力をもらい受診を依頼するが、必要に応じて職員も同行している。訪問歯科診療や薬剤師との連携もあり適切な医療を受けている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の中で変化があった時には24時間、協力医療機関に連絡し指示を受けられるようになっている。看護師長も週3回入居者の健康チェックに来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、情報提供書、介護要約サマリーを提供している。入院中も適宜回復状況を把握している。また、入院先医療機関と連携し早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族、医師を交えて話し合いを行い、今後どうするのか、何が出来るのかを話し合うようにしている。	契約時に重度化した場合や看取りについて、指針にて説明をおこない利用者や家族の希望や意向を踏まえ同意を得ているが、これまで看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い、緊急時の対応についての知識と技術を深めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年ごとに消防訓練を実施している。消防署員や防災設備の担当者にも参加してもらい指導してもらっている。	2階建てのユニットであるが、外付けの非常階段もあり、利用者を背負い避難する職員の訓練の様子が記録で確認できた。前回の「目標達成計画」で備蓄の確保について取り組んでいるところであり、地域の協力体制についても今後検討する予定である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁汚染時の更衣など入居者の気持ちに立って言葉を欠けている。また、周囲の方にも配慮している。	一人一人の人格を尊重し、失礼な言い方をしないよう言葉使いには注意している。 不適切な対応があった場合は、目上の職員などが注意し再発防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の性格や認知症の程度に合った声かけを心掛けながら、本人の希望に沿った支援が出来るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で之臥床時間が長い時や共同スペースで過ごしている時に疲労感が見られる時等には声かけを行い生活リズムや体調が崩れないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	こだわりのある方は、行きつけの美容室に通ってもらっているが、特にこだわりのない人は月一回の訪問カットで整髪してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時は、職員も入居者と一緒に食事をするようにしている。配膳、下膳の手伝いもしてもらうよう声かけを行っている。	献立は、法人の栄養士が1週間ずつ作成するが、日曜日の朝食だけは、職員と利用者が考え職員が食材を購入して作っている。また、行事食（誕生会、敬老会、節分、ひな祭りなど）も同様である。寿司が好きな方は職員と外食を楽しんだり、ファミレスや和食店、ソーマン流しなど皆で外食を楽しんでいる。下膳やテーブル拭きなどの手伝いをされる方もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じた食事形態で配膳しており、摂取量も日誌に記録している。食事量の少ない人は、看護師長等に相談し指示をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科診療に来てもらっており、治療や診察を受けられる体制が出来ている。口腔ケアも毎食後と就寝前に行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、パターンを把握しトイレ誘導を行っている。失敗や汚染で自尊心が傷つかないように気を付けている。出来るだけオムツに頼らない支援を心掛けている。	排泄チェック表にて本人の排泄のリズムを把握し、利用者に合った声かけを徹底してトイレに誘導している。ポータブルトイレを夜間帯に使用される方は少なく、布の下着の方もおられるが、パットを併用される方は多い。職員は、なるべくトイレで排泄ができるよう排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を記録し、日常の活動量等も把握して、下剤等に頼らない排泄を検討している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の曜日はそれぞれ決めてあるが、体調や気分によって日程を変更している。また、入浴剤なども使用しゆっくりを入浴を楽しめるよう配慮している。	同性介助にて入浴される方や気分やタイミングを見て入浴される方がおられる。また、家族と温泉を楽しまれる方もあり、浴槽の出入りなど職員が二人介助する方もある。職員は、個々に応じた入浴方法を検討し利用者に入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転等の生活リズムが崩れないように日々の休息時間を観察している。就寝は本人が休みたい時間までリビングで自由に過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が処方箋に目を通すようにしている。薬包の各入居者の名前、日付の確認を徹底し、薬剤の飲み残し等が無いように飲み込むまで見守り、声かけを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の趣味を把握し、楽しんでもらえる機会を作り、他入居者も一緒に楽しめるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は公園へ散歩に行ったり、近くの店に行ってお買い物を楽しんでもらっている。また、「月一回程度行事を開催し屋外活動を楽しんでもらう機会を提供している。	市の福祉バスを活用し外出を計画して月1回程度は外出ができるよう取り組んでいる。日常は、隣接の公園に散歩に行ったり、近所のスーパーなどに買い物に出かけたりして外の雰囲気を肌で感じられるよう配慮している。また、体調に応じてなるべく外出ができるよう家族に協力をもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に職員が管理しているが、外出時等、状況に応じて本人に渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ケ族より電話があった場合は取り次いでおり、また、本人より申し出があった場合はこちらから家族へ電話をかけることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけて、衛生的で快適な環境作りを目指している。また、創作活動による季節の飾り物等を展示し、季節感を出すようにしている。	リビングは広く採光があり、円形の窓から晴れた日には桜島が望める。対面式キッチンから料理の匂いや音、職員の声がしたり、ソファでくつろいでいる方がおられたり、畳コーナーもありほのぼのとした光景が伺える。廊下には園児の書いた利用者の似顔絵が掲示されていたり、季節を感じさせる創作作品が展示されている。玄関には、ユリの花が活けてあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に自分の居心地のいい場所で過ごして頂くよう配慮している。リビングで過ごされる人には、出来るだけ職員も話しかけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具や家電製品を持って来て貰い、自分が住んでいた家に少しでも近づくように配慮している。	家族写真、テレビ、籐の椅子、冷蔵庫、桐たんすがあり、転倒予防のため大きめのマットを敷いている方がいる。居室には、洗面台が設置しており衛生面にも気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の残存能力を生かし、自立支援を行っていく。また、事故防止の話し合いも行ない、安全に過ごせるよう配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない